

くりはらの大豆だより

宮城県栗原農業改良普及センター

令和4年度 臨時号 令和4年7月22日発行

TEL 0228-22-9404

令和4年7月15日から16日の大雨に伴う技術対策について

栗原市内では前線からの暖かく湿った空気の影響により、7月15日から16日にかけて大雨となり、築館・若柳・瀬峰・志波姫地区等で浸水・冠水が発生しました。

また、今後も降雨が予想されているので、身の安全を確保した上で、下記の対策を実施してください。

- (1) 湿害を防止するため、排水溝や明きよの点検を行い、排水に努める。
- (2) 排水後、ほ場の乾燥を待って中耕培土を行う。その際、生育が不良の場合は追肥を検討する。追肥は窒素成分で10a当たり2kg程度施用し、その後中耕培土を行う。
- (3) 浸冠水期間とその後の被害割合は下表のとおり。

表 大豆における浸冠水期間と被害割合 (%)

		冠水・浸水期間			
		1日未満	1日以上2日未満	2日以上3日未満	3日以上
被害割合 (%)	冠水	5	15	50	100
	浸水	3	15	40	65

(注意1) 開花期までの生育初期から生育中期の大豆に適用する。

(注意2) にごりのある停滞水の場合に適用する。

「農業災害ハンドブック（農作物気象災害技術対策指針）」平成2年3月 宮城県農政部より抜粋

今後の栽培管理については、7月末発行予定のくりはらの大豆だより第2号に掲載します。